

### 推進の柱 3

### 地域における様々な主体が連携しながら、 地域がもつ力をわかつあえる地域づくり

地域における様々な主体が連携しながら、地域がもつ力をわかつあえる地域づくり

重点項目〈柱3-1〉 帯広い区民参加の促進を図ります

3-1-1 帯広い住民の参加の促進

重点項目〈柱3-2〉 多様な主体の連携・協働による地域づくりを進めます

3-2-1 地域福祉保健に関わる企業や社会福祉法人等との連携・協働の推進

重点項目〈柱3-3〉 地域福祉保健活動を広げるための環境づくりを進めます

3-3-1 地域福祉保健活動の充実

推進の柱  
3

## 重点項目 柱3-1 幅広い区民参加の促進を図ります

### 現状と課題

- ◆住み慣れた地域で安心して充実した生活を送るためには、住民一人ひとりが福祉や健康づくりに関心をもち、住民参加による福祉保健のまちづくりを行うことが重要です。
- ◆福祉教育や世代間交流などを通じて、地域の文化や福祉保健課題を知る機会を広げることで、地域活動や行事・イベント等への参加や福祉保健課題の解決に向けた担い手づくりにつなげていくことが必要です。

#### 柱3-1-1

##### 幅広い住民の参加の促進

### 将来の目指す姿

- 1 あらゆる世代の人たちが地域と関わり合いをもち、福祉保健活動に参加する人が増えています。
- 2 次世代を対象とした地域でのつながりを育んでいく取組が地域の多様な機関により取り組まれ、子どもたちの地域への愛着が育まれています。

### コラム

#### ボランティアセンター(都筑区社会福祉協議会)

ボランティアセンターは、「ボランティアによる支援を必要とする人や団体」「ボランティア活動をしたい人や団体」のコーディネートを行っています。相談内容によっては、地域ケアプラザなどの関係機関、地区社会福祉協議会やボランティア団体等との連携を通じて、身近な地域での支え合い助け合いを意識しながら解決に向けて取組んでいます。

また、ボランティア団体交流会や講座等の実施、広報啓発活動等も行っています。交流会は、ボランティア団体同士の横の繋がりをつくり、悩みや課題、その解決策等を共有することで、より円滑な活動につなげることを目的にしています。ボランティア講座は、活動者の発掘や育成、ボランティア活動者のスキルアップ、活動者同士の繋がりづくりを目的に開催しています。広報啓発活動は、ボランティア情報紙の発行、ホームページやメールマガジン等も活用して、ボランティア関連情報の発信にも努めています。様々な機会を通じて、多くの人がボランティア活動を身近に感じ、地域の中で生きがいをもって、活躍できるようなきっかけづくりを進めています。



ボランティア団体交流会



ボランティア団体講座

柱3-1-1	幅広い住民の参加の促進
内 容	(1)地域活動に关心を持つ人を増やし、一人でも多くの住民が地域活動に参加できるよう促し、地域活動の担い手育成につなげていきます。
具体的な取組	◆地域活動へ一歩踏み出す後押しをする取組の実施 ◆地域情報や活動に関する情報発信など地域を知るきっかけづくり ◆幅広い方に地域行事等に参加してもらう呼びかけ・コーディネートの実施 (学生の力の活用、若い世代へ子どもをきっかけとした地域への関わりの促進) ◆地域ケアプラザのボランティアコーディネート機能の充実
活動指標	<b>【定量評価】</b> 地域ケアプラザが把握しているボランティア新規登録人数 現状値(令和元年度):45人 目指す方向性:↗
SDGs <b>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</b>	  

**コラム****食育・健康フェア  
～「噛むこと」「食べること」を家族で楽しみながら健康づくりを考えよう～**

食育・健康フェアは「食育月間(6月)」と「歯と口の健康習慣(6月4日～10日)」にちなんだ催しです。「食育」というと子どものことと思われがちですが、すべての世代の方にとって大切なことです。私たちの健康に欠かすことの出来ない「食べる事」と、それを支える「歯と口の健康」、そして「健康づくり」について楽しく紹介しています。

**【パネル展】**

区内幼稚園、保育園、小中学校、企業、団体などの「食育」や「お口の健康」、「健康づくり」の取組、情報を展示しています。

**【イベント「食育・健康フェア」】**

6月第4土曜日に都筑区歯科医師会、都筑区食生活等改善推進員会、都筑区保健活動推進員会等の団体や企業と連携して実施しており、親子で楽しめる体験コーナーやゲーム等、たくさんのブースを展出しています。



## 重点項目 柱3-2 多様な主体の連携・協働による地域づくりを進めます

### 現状と課題

- ◆複数の組織や団体が協力したり、お互いを補い合うことで、それぞれの活動や取組が広がり、高い効果が期待できます。そのため、地域で活動する団体、行政、関係機関、企業、学校等が横のつながりの関係を強め、連携を深めていくことが大切です。
- ◆社会福祉法の改正等により、社会福祉法人は公益性・非営利性を備えた法人として、地域貢献への期待が高まっています。各法人・施設が地域とつながるとともに、実施する事業の特長を活かし、地域ごとのニーズに合った取組を進めていくことが重要です。

#### 柱3-2-1

地域福祉保健に関わる企業や社会福祉法人等との連携・協働の推進

#### 将来の目指す姿

- 1 住民や自治会町内会などの地域団体と地域にある社会福祉法人等の施設、企業、NPO法人、学校等、地域の多様な主体がそれぞれの強みや経験を活かしながら、地域課題に対して、連携・協働して解決に向け取り組み、その取組が広がっています。

#### コラム

#### 横浜型地域貢献企業 株式会社スリーハイの取組(東山田準工業地域)

東山田地区にある株式会社スリーハイはシリコンラバーヒーターをはじめとする工業用ヒーターを製造する企業です。平成16年に横浜市に移転して以後、住宅地と工場が隣接した準工業地域の企業として、地域とともに生きる企業づくりを目指し、地域貢献活動を始めました。その一環で、株式会社スリーハイが東山田準工業地域の企業に参加を呼びかけ、平成23年から「まち探検」事業を開始。東山田地区にある小中学校の子どもたちを受け入れ、東山田準工業地域の工場見学や職場体験を行っています。子どもたちにとっては、ものづくりの魅力を肌で感じながら、働く人の思いを知り、身近な地域にある様々な職業を知る機会となっています。また、「まち探検」事業を通して、参加企業が互いの企業や東山田地区の地域とつながり、そこから更に地域での活動が展開されています。「将来を担う子どもたちと共に育てていく」という思いを軸に、企業、学校、地域と様々な連携が広がっています。



「まち探検」の様子



YOKOHAMA  
地域貢献企業

##### 【横浜型地域貢献企業とは?】

横浜市では、横浜市民を積極的に雇用している、市内企業との取引を重視しているなど、地域を意識した経営を行うとともに、環境保全活動や地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業等を「横浜型地域貢献企業」として認定しています。なお、株式会社スリーハイはこうした取組を通じて、横浜型地域貢献企業479社(令和2年8月末現在)の中でも横浜を代表する企業としてプレミアム表彰企業に認定されています。

柱3-2-1	地域福祉保健に関わる企業や社会福祉法人等との連携・協働の推進
内 容	(1)企業、NPO法人、学校等地域の多様な主体が住民・地域団体等と連携・協働し、それぞれの強みを最大限に発揮して取り組めるよう支援します。 (2)社会福祉法人・施設が、その特徴や専門性を活かして地域貢献活動に取り組めるよう支援します。
具体的な取組	◆地域と多様な主体により実施されている事例の周知 ◆学校と地域の協働の推進 ◆地域と社会福祉法人・施設により実施されている事例の周知 ◆地域と社会福祉法人・施設とのコーディネート ◆フードドライブの活用、フードバンク等との連携、推進
活動指標	【定性評価】 ●地域と社会福祉法人が協働して実施している事例 ●地域と企業が協働して実施している事例
SDGs <b>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</b>	    

**コラム****地域と企業との協働～「リリイの集い」～(茅ヶ崎中央)**

平成31年3月にオープンした民間のサービス付き高齢者向け住宅「リリイパワーズレジデンス センター南」に、新栄地域ケアプラザの生活支援コーディネーターが「地域に開いた居場所づくり」と一緒に出来ないかと働きかけました。この地域内には誰でも参加が出来る集いの場がないことと、地域とつながりを持ちたいという住宅側の希望が合致し、日中使用していない食堂を使った地域住民の集いの場、交流の場として、令和元年8月に「リリイの集い」が立ち上りました。

サービス付き高齢者向け住宅には他区からの転居者が多く、地域情報を知る機会がない方も多くいることから、都筑区の魅力や歴史、地域情報、地域ケアプラザの機能などを伝える活動を取り入れています。3か月に1回の開催を続けながら、地域のボランティアによるレクリエーション活動、地域包括支援センターや区内の民間福祉事業所による健康講座、身体を動かす体操なども行い、住宅の住民だけではない地域の身近な居場所であり、介護予防、認知症予防の場にもなっています。

民間企業、福祉事業所、地域住民、関係機関など、多様な主体で目指す方向性を共有し、連携を図りながら地域づくりを進めています。



リリイの集いの様子



## 重点項目 柱3-3 地域福祉保健活動を広げるための環境づくりを進めます

### 現状と課題

- ◆地域では多くの住民が地域福祉保健活動に取り組んでいますが、担い手の負担増や財源の問題、取組内容のマンネリ化等により、継続が難しくなっている活動も少なくありません。活動を立ち上げるためや継続させていくための支援が求められています。
- ◆活動を継続させていくためには組織的な活動として継続・発展させていくことを通じて、地域福祉保健活動の裾野を広げていく必要があります。

#### 柱3-3-1

##### 地域福祉保健活動の充実

### 将来の目指す姿

- 1 地域福祉保健活動が継続、拡充するための環境が整備でき、地域の課題に応じた様々な活動が広がっています。
- 2 活動の立ち上げ・継続に必要な支援策が広く認知され、活用されています。

### コラム

#### 都筑区ふれあい助成金及び「つづき あい基金」助成金

都筑区社会福祉協議会では、地域で取り組まれている福祉保健活動や新規活動の立ち上げ等を支援するため、助成金の制度を設けています。

「都筑区ふれあい助成金」は、主に都筑区内で実施される、市民の自発的な福祉保健ボランティア活動や障害当事者活動などを支援する助成金です。赤い羽根共同募金や市民から寄せられた寄付金などを財源としており、地域福祉活動を財政面から応援したいという多くの人々の気持ちにより支えられています。

また、「つづき あい基金」助成金は、都筑区地域福祉保健計画推進のため、計画に基づき地域で実施される福祉保健活動を支援する助成金です。活動経費の一部を助成することで、「計画の推進」を資金面からバックアップしています。「つづき あい基金」自体は、都筑区社会福祉協議会善意銀行配分金、都筑区役所補助金、都筑区チャリティーゴルフ大会の収益金等で構成されています。



障害者余暇支援活動(都筑区ふれあい助成金を活用)



認知症&予防カフェ(「つづき あい基金」助成金を活用)

柱3-3-1	地域福祉保健活動の充実
内 容	(1)身近な地域でちょっとした困りごと等を解決するため、ボランティア等の登録や相談、コーディネートを行う地区ボランティアセンターの立ち上げや継続を支援します。 (2)必要としている活動団体等に、新たな活動や継続的に活動を実施していくための助成金や資金確保の手法、ノウハウ等の支援策を提供します。
具体的な取組	◆日常生活のちょっとした困りごとをお手伝いする「生活支援ボランティア」などの立ち上げ、継続支援 ◆団体が自立して活動していくために必要な情報の提供 ◆活動の立ち上げ・継続に必要な支援制度に関する広報 ◆関連する他分野と連携した地域支援の推進
活動指標	【定量評価】 生活支援ボランティア登録数 現状値(令和元年度):6団体 目指す方向性:↗
SDGs 	   

## コラム

## ふれあいの丘 ほっとボランティアの会(ふれあいの丘地区)

「ふれあいの丘ほっとボランティアの会」は、平成30年5月に、ちょっとした困りごとの手助けをする生活支援ボランティアグループとして設立されました。この取組は第3期ふれあいの丘地区別計画の目標の「高齢者がいつまでも元気に暮らせる環境を創っていこう!」の中の1つの取組として、11名のふれあいの丘連合自治会や地区社協の幹部のメンバーと関係機関による準備会で、約1年間の議論を経て立ち上りました。

立ち上げに向けての準備会では、アンケートの設問内容や会則のベースづくり(会設立総会時に最終決定とした)などについて検討を進めました。アンケートはふれあいの丘連合自治会地区内にお住まいの全世帯に対し、地域活動への関心や、現在困っていることなどの設問でのニーズの把握だけでなく、ボランティアの募集も併せて行ったところ予想以上に応募があり、最終的に22名の活動者で会をスタートすることになりました。

「ちょっとしたお手伝いをお互いにやりながら助け合うことで、生きがいにもつながるのではないか。」「いつかはちょっとしたお手伝いが必要になってくる。少しでも早めに立ち上げたい。」という会長の想いのもと立ち上ったこの会は、今では毎月多くの依頼を受け活発に活動が行われ、地域での支え合いの輪が広がっています。



活動の様子(掃除)



活動の様子(草刈り)